

担当地区等の現状と今後の対応

玉那覇 靖

1. 概 要

平成3年度より、地区担当制を導入し、よりきめ細かい対応ができたと思われた。地区担当ということで巡回指導地区への責任が明確になり、多い地区で2週間1回近く回れた地区もあった。

しかし、普及員1名で6地区(2町4村)の巡回指導の負担は重く1年間を通して数回しか回れないのが2地区あった。

又、地区の課題から派生する「流通問題」や

「赤土問題」等に多くの時間を割かれた。さらに、地区をまたがる問題の対応や普及員の巡回のむらにも多くの苦情が寄せられたが、改善策はとれずに中途半端な対応や処理が多々あった。

2. 担当地区等の現状と今後の対応

担当地区等の現状と今後の対応については、表1のとおりとなっている。

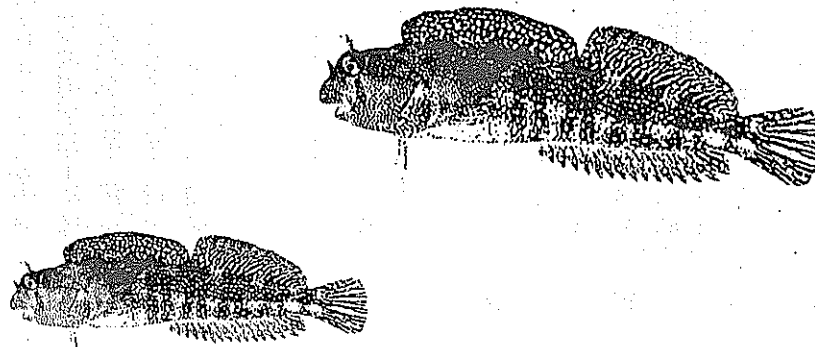


表 1 普及活動報告と評価

課 題 名	。担当地区への指導	。漁業公害調査指導事業	。流通関連対策	。普及だより	。沿岸漁場整備開発事業
協 力 者	。今帰仁、本部、恩納、読谷、嘉手納、那覇の各漁協等。	。 (社) 水産業中央会、各漁協、漁業者等。	。全県下の各漁協等。	。漁業者、漁協等	。漁業者、漁協等。
目 的	。漁業者からの情報収集と行政施策の伝達。又、関係機関への情報提供。	。漁業公害の未然防止。	。流通の実態解明と情報収集と対策。	。関係者への情報の提供	。沿整法の目的達成。
目 標	。良好なコミュニケーション。	。良好な漁場環境。	。各地区で漁協が中心となっていて対策がとれること。	。関係者のニーズを把握し、迅速な対応。	。4次沿整計画への支援
方 法	。活性化計画に基づき進行管理。 。各種勉強会開催等。	。月1回の水質、濁度等の測定。 。テキストを作成し、講習会。 。地域での指導。	。流通調査。 。電算化。 。対策活動支援。	。普及ニュース発行。 。FAX通信。 。関係機関への協力。	。巡回指導。 。利用状況アンケート。 。ニーズ調査。
結 果	。今帰仁→ウニ放流実施。 。本部→モズク製品開発。 。恩納→赤土公開授業。 。読谷→観光漁業芽出し。 。嘉手納→シヤコガイ勉強会。 。那覇→流通勉強会。 。特に嘉手納の巡回ができず専門分野に重点を置いた。	。月1回の測定、現地調査。 。小中学校での公開授業。 。テキスト等の作成。	。輸入水産物増大による魚価の安値。 。「もずく大好き！」の冊子を漁連が発行。	。普及ニュース8回発行。 。FAX通信32件。 。情報交換会8回。	。浮魚礁の要望多。 。アンケート実施。
問 題 点		。テキスト印刷等の予算が少い。	。予算、対応人員が少なく、十分な対応ができなかった。	。他機関誌との提携。	。指導の強化。 。アンケート回収。
次年度への展開	。各地区の年度目標の設定。	。業務の重点配分。	。漁連等との連携強化。	。編集体制の強化。	。指導のマニュアル化。

平成6年度 水産業改良普及所の事業概要（計画）

事業項目	事業小項目	事業概要等
1. 水産業改良普及事業 (交付金対象事業)	普及員等の設置	専技1人、普及員10人（漁政課1人、普及所3人、本部駐在2人、宮古支庁2人、八重山支2人）
	普及指導活動	- 漁船漁業に関する指導 - バヤオ・ソデイカ釣りの漁具漁法及び鮮度保持に関すること - 深海タチウオ釣り漁業の導入と改良 - その他 - 養殖業に関する指導 - モズク、ヒトエグサ（アーサ）、クビレツタ（ウミブドウ）、オゴノリ、ヒジキ、その他の海藻類 - マダイ、ハマフエフキ（タマン）、その他の魚類 - その他 - 栽培漁業に関する指導 - シャコ貝類、チンシラー等の放流指導、資源管理型漁業への取り組み指導、その他 - 水産物加工に関する指導 - シイラ、ソデイカ、トビウオ、シラヒゲウニ、藻類、その他 - 水産物流通に関する指導 - 水産物全般の流通に関する指導 - 巡回移動相談室 - 漁協青壮年部等の活動指導、その他、なんでも相談室等の現地開催
	普及職員の研修 1.普及員行政研修 2.普及員一般研修 3.専技研修 4.その他の研修	
	普及員室等の運営	漁家経営指導——漁村地域活性化計画等の策定指導
2. 漁業生産の担い手育成事業 (国庫補助事業)	交流学習事業	- 学習会 - 講演「自主的な広域資源管理の実践事例」（石垣市8月・講師：兵庫県摂津ガザミふやそう会） - 講演「海の村おとし運動について」（那覇市・平良市1月・講師：リュウセロ社長・知名洋二） - 生産者会議の開催（モズク養殖、ヒトエグサ養殖、魚類養殖、漁船漁業） - 技術交流会 - 魚類の養殖と流通（大宜味村・与那国） - バヤオ直売店視察（那覇市・読谷村・宮古） - 水産教室 - 干潟の観察とシュノーケリングの取り扱い（石垣市内の中学生・8月） - 追込網、バヤオ漁業体験実習（宮古地区の中学生・8月） - ポスター「沖縄の魚介類」・地域漁業マップの作成（担当地区別） - 実績発表大会 - 青壮年部、婦人部、研究グループ等の活動成果を発表（那覇市1月・県代表は中央大会へ、東京3月）
	青年漁業士等育成事業	- 漁業士の養成（平成5年度までの実績：青年漁業士20人、指導漁業士18人、名誉指導漁業士2人） - 漁業士研究会等の開催（沖縄県漁業士会）事務局は水産業改良普及所 - 青年漁業士認定講座（普及所9月）、漁業士認定審査会（委員8人、11月）、認定証授与（1月）
	新技術定着試験	- ハタ類の養殖試験Ⅱ（大宜味村） - バヤオマグロやけ対策（宮古5月～10月） - クビレツタの養殖試験（与那国4月～10月）
	技術改良試験	糸モズクフリー糸状体採苗試験（糸満・与那城 4月～3月）
	漁村青少年協議会の開催	本島、宮古、八重山の各地区に配置、委員数計22人、各地区年3回開催（6、9、2月）
	漁村婦人はつらつライフ事業	- 講習会——漁村婦人に対する特産品づくり（モズク佃煮加工等） - 営漁指導事業——営漁簿の記帳について - 交流学習事業——加工施設等についての視察交流
3. 普及活動高度化特別対策事業 (国庫補助事業)	普及水準高度化特別対策事業	普及職員短期研修（魚病研修・1～3年次・東京・5、8、10月）
	普及機材整備強化事業	魚病及び藻類糸状体顕微鏡撮影機材設置
4. 漁業公害調査指導事業 (国庫補助事業)		赤土汚染状況の定期的な定点測定、情報収集、対策指導、藻場調査、テキスト作成、DO及びPH測定、ベントス調査
5. 沿岸漁業改善資金 (国庫補助事業)		申請者調査、貸付確認調査、機器等使用指導

平成6年度 水産業改良普及事業実施スケジュール

沖縄県水産業改良普及所 TEL 098-994-4304 FAX 098-992-3142

項目	概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
若い漁業者確保推進事業	若い漁業者確保推進会議の開催			第1回普及所								第2回普及所		
青年指導事業	漁村青少年協議会の開催 年3回 沖縄地区10人、宮古地区5人、八重山地区6人			第1回普及所			第2回普及所					第3回普及所		
青年漁業士等育成事業	青年漁業士数人(講習会3日間) 指導漁業士数人						講習会普及所		認定委員会		認定式水産会館			
漁業士会活動	①総会 ②水産行政懇談会 ③研修会 ④技術交流会 ⑤役員会 ⑥全国集会 ⑦現地適応化試験	⑦		⑦	⑤① ②					⑥⑤ ⑦			⑤	
交流学習会	1. 海の村おこし運動について 講師 リューセロ社長 知名洋二 2. 自主的な広域資源管理の実践事例 講師 兵庫県根岸地区における「ガザミふそう会」										①			本島宮古
技術交流会	1. 魚類の養殖と流通 与那国から大宜味村 2. パヤオ直売店視察 宮古から那覇市沿岸、読谷				○	○					②			八重山
漁村青壮年婦人活動実績発表大会	県大会 全国大会										県大会水産会館		全国大会東京	
水産教室	千島の観察とシュノーケリングの取り扱い(石垣市内の中学生)					○								
	追込網、パヤオ漁業体験実習(宮古地区内の中学生)					○								
	ポスター「沖縄の魚介類」(本島地区)・地域漁業マップ作成													
生産者会議	①モズク ②ヒトエグサ ③魚類養殖 ④漁船漁業等													
県普及業務連絡会議	普及事業の実施計画、進捗状況、成果の検討等		○				○						○	
漁村婦人はつらつライフ事業	1. 漁村婦人に対する特産品づくり(モズク佃煮加工等) 2. 交流学習事業 3. 営漁指導事業		○	○	○	○	○	○	○			○		
新技術定着試験	ハタ類の養殖試験Ⅱ(継続)・塩屋 パヤオマゴロやけ対策・宮古地区(5~10月)													
技術改良試験	イトモズクフリー糸状体採苗試験(4~3月)													
普及職員行政研修	水産庁主催(東京)2人、10月 専門技術員研修・水産庁主催(京都)2人、6月 普及職員一般研修 九州ブロック普及職員連絡会議、(宮崎)9月・全国水産利用加工研究推進会議(東京)5月													